



調査レポート

企業のグローバル化に向けた取り組み状況及び人的課題に関する調査

～自社経営にグローバル人材を必要とする企業のうち約7割が人材不足に直面～

調査概要

○期間

令和6年5月23日(木)～31日(金)

○調査方法 FAX・Google

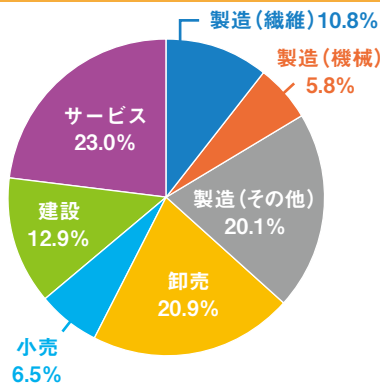
フォームからの回答受付

○調査対象 県内企業(当所議員企業、

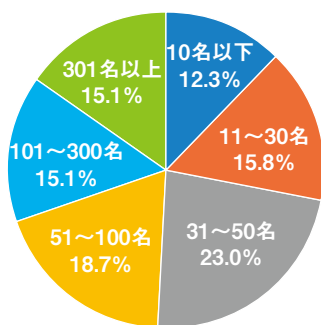
貿易関係証明登録企業など) 600社

○回答数 139社(回答率23.2%)

業種



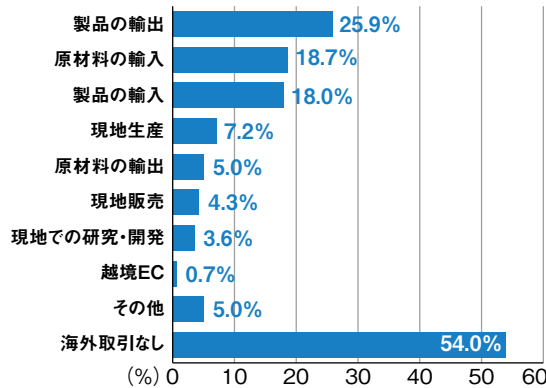
従業員数規模



現在の海外との取引形態

現在の海外との取引形態については最も多かったのが「製品の輸出」で25.9%であった。次いで「原材料の輸入」が18.7%、「製品の輸入」が18.0%であった。また、「海外取引なし」は54.0%であった。(グラフ1)

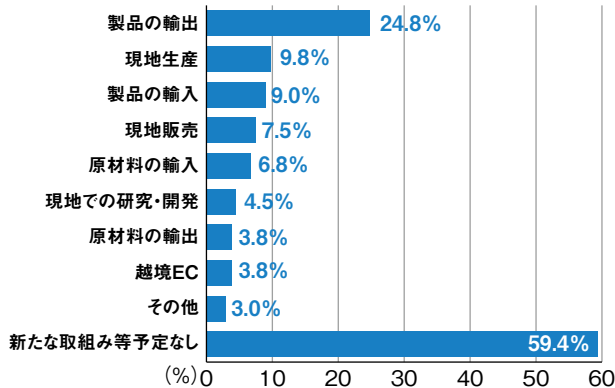
グラフ1 現在の海外との取引形態



今後新たに取引組むまたは拡大していく海外取引

今後新たに取引組むまたは拡大していく海外取引については、最も多かったのが「製品の輸出」で24.8%。次いで「現地生産」が9.8%、「製品の輸入」が9.0%であった。(グラフ2)

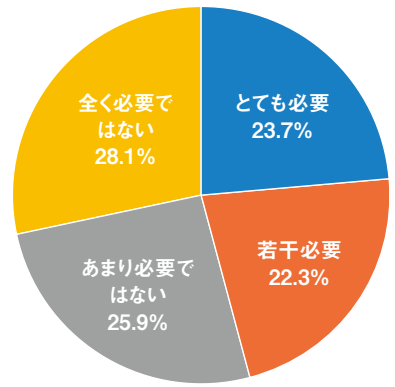
グラフ2 今後取組む(拡大する)海外取引



グローバル人材(海外展開に対応できる人材)の必要性

自社におけるグローバル人材(海外展開に対応できる人材)の必要性については「とても必要である」が23.7%、「若干必要である」が22.3%で、合わせて「必要である」と答えた企業は46.0%で全体の約半数を占めた。業種別では「製造(繊維)」(53.3%)、「製造(機械)」(75.0%)、「製造(その他)」(71.5%)、「卸売」(55.2%)において「グローバル人材が必要である」という割合が高かった。(グラフ3)

グラフ3 グローバル人材の必要性



グローバル人材の充足度

自社におけるグローバル人材の充足度については、「全く充足できていない」が12・3%、「あまり充足できていない」が27・6%であった。合わせると「充足できていない」と答えた企業は39・9%で全体の約4割であった。また、グローバル人材を必要としている企業においては充足できていない割合が高かった。「とても必要」としている企業では71・9%が充足できていない。「若干必要」としている企業では77・4%が充足できていない（グラフ4、表1）

グローバル人材の育成・充足手段

自社におけるグローバル人材の育成

グラフ4 グローバル人材の充足度

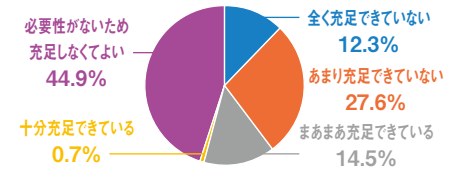
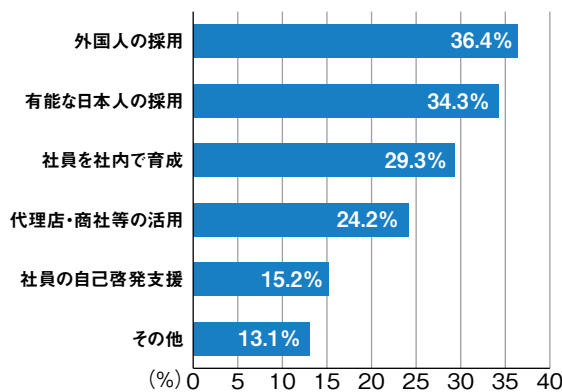


表1 グローバル人材の必要性に応じた充足度

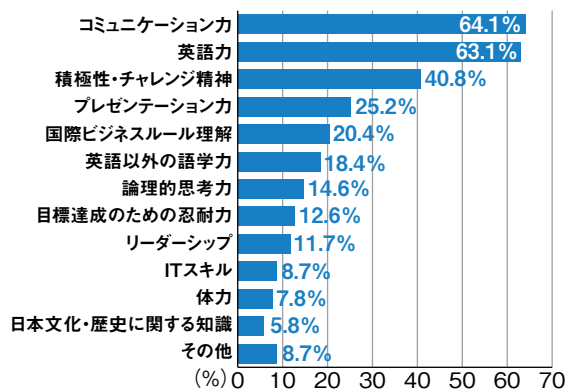
		充足できていない
全体平均		39.9%
グローバル人材の必要性	とても必要	71.9%
	若干必要	77.4%
	あまり必要ではない	22.2%
	全く必要ではない	0.0%

グラフ5 グローバル人材の育成・充足手段



・充足手段については、最も多かったのが「外国人の採用」で36・4%であった。次いで「有能な日本人の採用（語学堪能、海外勤務経験ありなど）」が34・3%、「海外取引に適應できる社

グラフ6 グローバル人材に求める能力

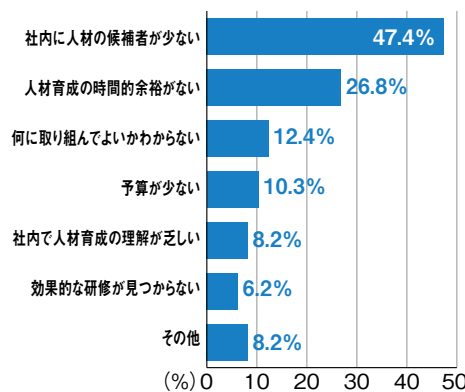


員を社内で育成」が29・3%であった。（グラフ5）

グローバル人材に求める能力

グローバル人材に求める能力については、最も多かったのが「コミュニケーション力」で64・1%であった。次いで「英語力」が63・1%、「積極性・チャレンジ精神」が40・8%、「プレゼンテーション力」が25・2%であった。この結果から企業が求める「グローバル人材像」とは「英語を話せて、スムーズに外国人とコミュニケーションをとりながら、新たな商談や事業に積極的に挑戦する人材」と言える。（グラフ6）

グラフ7 グローバル人材育成の課題



グローバル人材育成上の課題

自社におけるグローバル人材育成上の課題については、最も多かったのが「社内にグローバル人材の候補者が少ない」が47・4%であった。次いで「グローバル人材を育成する時間的余裕がない」が26・8%、「何に取り組んでよいかわからない」が12・4%であった。（グラフ7）

お問合せ

福井商工会議所
地域活性・振興課

0776-33-8253

詳しくは
コチラ▶

